

合唱部活動の活性化のために

—活性化のための組織づくりと、一年間の活動—

Educational practice report: For activation of the chorus club activity

—Organization production for activation and activity for one year—

白鳥 清子 Kiyoko Shiratori

(家政学部こどもの生活専攻)

抄 録

筆者は、私立ミッションスクールの女子高等学校で、40年間にわたり少人数の合唱部から、100名を超える部員の大合唱部にし、全国大会1位を受賞するまでに育て上げた。その中から、合唱部活動を活性化するための全員参加型の組織や、係りの活動、一年間の学内行事、学外行事の活動目的と手立てについて述べる。すべての部員が係りにつき、すべての活動は、部員が計画実施する。目標、方法、予定などを明示し、かつ楽しいプリントを作成し、指示し実施していく中から、一人ひとりの自立が促され、人間力が育まれていく。合唱は大人数で歌唱するため、その他大勢の中に埋没しがちであるが、一人一人が自立し1分の1の存在で歌っている部員が100人集まる合唱を目指すことが大切である。このことが部活動の活性化につながっていく。また、一年間に様々な活動を企画し、開催することにより、一般の方の認知と応援が増す。部員は多種多様なニーズを知ることにより、人間力が広がり、かつ実行力が培われていき、部としての活動の活性化を図ることができる。一年間のさまざまな活動とその主旨について述べていく。

キーワード

音楽 Music 合唱部 Chorus club 活動 Activity
活性化 Activation 組織 Organization

目 次

- 1 はじめに
- 2 組織と、係りの活動
- 3 行事・発表会などの活動
- 4 一年間の活動
- 5 おわりに

1 はじめに

筆者は、私立ミッションスクールの女子高等学校で、40年間にわたり少人数の合唱部から、100名を超える部員の大合唱部にし、全国大会1位を受賞するまでに育て上げた。その中から、合唱部活動を活性化するための全員参加型の組織や、係りの活動、一年間の学内行事、学外行事の活動目的と手立てに

ついて述べる。すべての部員が係りにつき、すべての活動は、部員が計画実施する。目標、方法、予定などを明示し、かつ楽しいプリントを作成し、指示し実施していく中から、一人ひとりの自立が促され、人間力が育まれていく。合唱は大人数で歌唱するため、その他大勢の中に埋没しがちであるが、一人一人が自立し1分の1の存在で歌っている部員が100人集まる合唱を目指すことが大切である。このこと

が部活動の活性化につながっていく。また、一年間に様々な活動を企画し、開催することにより、一般の方の認知と応援が増す。部員は多種多様なニーズを知ることにより、人間力が広がり、かつ実行力が培われていき、部としての活動の活性化を図ることができる。一年間のさまざまな活動とその主旨について述べていく。

2 組織と、係りの活動

組織と係りの活動は、部員の総数により各係りの人数は変動するが、全員が何かの係りを受け持ち、部活動の一員としての役割、責任を持ち部のために活動することを目的とする。係りとして活動しているものは下記の係りである。部長、副部長は部活動を代表する役割であるが、その他の係りは全員平等で、上下関係を作らないものとし、どの役割も、どの部員も大切な存在であることを日々伝えていく。

組織として、まず部長1名、副部長1名（もしくは2、3名）があり、次に音楽関係係りとして、予定係（月間、週間予定）、発声係り、カデンツ係り、指導案係り、筋トレ係り、音チェック係り、オーディション係りがある。舞台関係係りとして、踊り係り、衣装係り、並び係り、運搬係り、ハンドベル係りがあり、ノート・学習係りとして、日記係り、学習係り、楽譜係りがある。縁の下の係りとして、会計係り、掃除係り、電池係り、アルバム係り、ビデオ係りをもうける。

組織は、当該年度のコンクールが終了した時点で次年度の組織を決めていく。部長が係の説明プリントを作成し（図1）、コンクールからの帰路のバス車中にて、1年生に係りの内容を説明し、1、2年各学年の話し合いによって決定していく。重要事項を決定するときには、必ず全員揃うことを条件としているため、コンクールの帰路のバス車中は全員が揃う最も有力な日程であると共に、次年度のコンクールへのスタートの日でもある。しかし、この日に全員揃っていない場合は、何日もかかることがあるが、全員が大切な部員であることへの意識付けのためや、チームとしての活動のためにも、全員揃うのを忍耐強く待って組織決めるを行う。各係りの活動内容を次に記す。

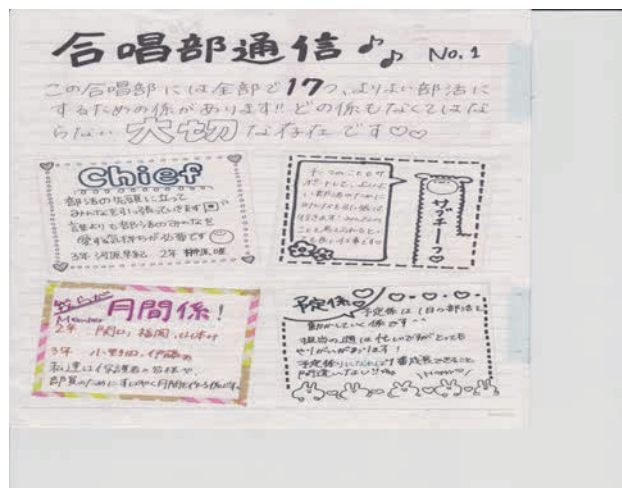


図1 係り決めのプリント

2.1 部長・副部長

1) 部長（チーフ）

3年生の部長と1、2年生のチーフを各一名決める。部長は部の代表として活動し、部員約100名、各学年3、40名ほどの部員の様々な思いを理解し、受け止め、リーダーシップが必要な重要な役割である。「ほめてもらうのも、怒られるのも部長」と話す。「合唱部心得」（図2）などを作成し、部員全員の精神的な指針となる役割を担う。



図2 部長作成「合唱部心得」プリント

また、4月に多くの1年生が入部し、全員の名前を早く覚えコミュニケーションをとれるよう、100名の自己紹介の載っている「合唱部図鑑」を作成する（図3）。



図3 合唱部図鑑

2) 副部長（サブチーフ）

各年度の部員数により、1人または2、3人を決定する。部長やチーフを助け、部員の心のケアなど裏方としての役割が強い。

2.2 音楽関係係り

1) 予定係り（月間・週間）

1学期間の大まかな予定を立てる月間予定係りと、毎週の細案を立てる予定係りに分かれている。

月間予定係りは、1学期間のおおまかな行事や、休日予定を決め、プリント作成する。各家庭用と本人用の2枚を配布し、各家庭の予定もこの月間予定を参考に、出来る限り協力の要請をしている。また、保護者への行事・コンクールへの案内はまずこの月間予定表を通じて周知を図っている（図4）。

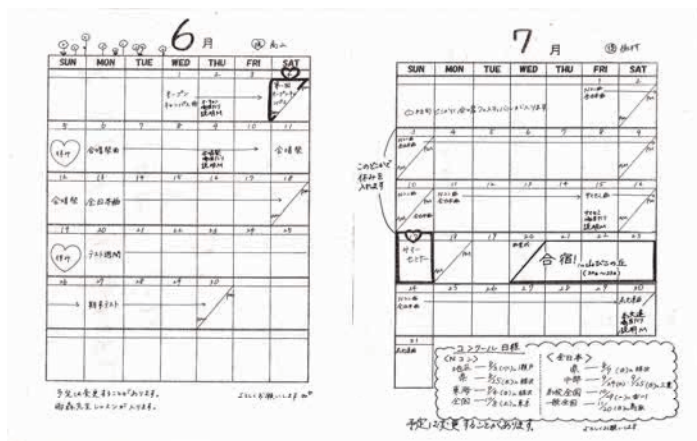


図4 月間予定表（6、7月）

2～4名の週間予定係りは、各週を分担しローテーションしていく。係りは、担当の一週間の分刻みの予定を1、2週間前から計画し始める。その後の練習内容を反映しながら前週の中ごろ、一週間の予定が完成する（写真5）。担当週にはいると、毎日の練習の進捗状況を把握しながら顧問と綿密に報連相しながら日々練習計画を立て、より良いものにしていく。毎日の練習予定は、すべて顧問と相談の上決定していく。部員は、予定係の指示は、顧問の考えと受けとめ係りの指示通り練習を進めていく。予定係は、部員の練習方法、進捗状況、困難な部分、心理的要因などを的確に把握し部員全員により良い練習計画を提示し指示していく要の係りである。

写真5 一週間の予定表

2) 発声係り

毎日の練習の最初に行う発声練習の係りである。4月には新入部員に発声の基本のプリントを作成し配布する。発声は、時期や曲目により、日々内容を工夫する必要がある。新入生が入部した4月と、6、7月のコンクール時期に入ったころ、全国大会間近なころは、発声内容は大きく変化している。現状をふまえ、課題を解決する為の発声練習を、毎日きめ細かく考え実行していく必要がある。また、学年ごとのメニュー、パートごとのメニュー、曲の一部分を取り出し発声練習に取り入れていくなど、様々なアプローチが必要であり、マンネリに陥らないよう、楽しくテンション高く、部員を引っ張っていくエネルギーが大切である。

3) カデンツ係り

カデンツ係りは、発声係りとともにハーモニー感を養うためのカデンツ練習を行う。プリントを作成し（図6）、各曲の終止部分を取り出し、発声練習

の中にカデンツ練習を組み込んでいく。ハミング、歌詞、母音唱など曲の進捗状況に合わせ工夫し練習を進める。

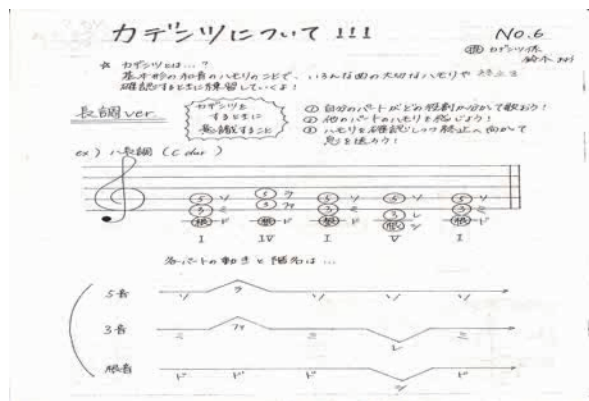


図6 カデンツ説明プリント

4) 指導案係り

毎日の練習は、生徒主導で練習を進める。その日の練習内容や練習方法の統一を図る必要がある為、指導案係りが計画係と相談し、細かなその日の練習方針を決め、各曲、各パートの係りに指導案作成の指示をする。4月には指導案の書き方プリントを作成し配布し(図7、8)、各パートの曲の係りが練習を行う。指導案には、日時、練習場所、曲名、練習目標、練習箇所、歌唱方法(階名、歌詞、母音などの別)、パートの種類(パート別か2パートの合わせなど)やグループ別など、学習指導案と同等のものを作成し、それに従って練習を進める。各曲の係の指導案の提出期限は前日で、顧問が目を通す。

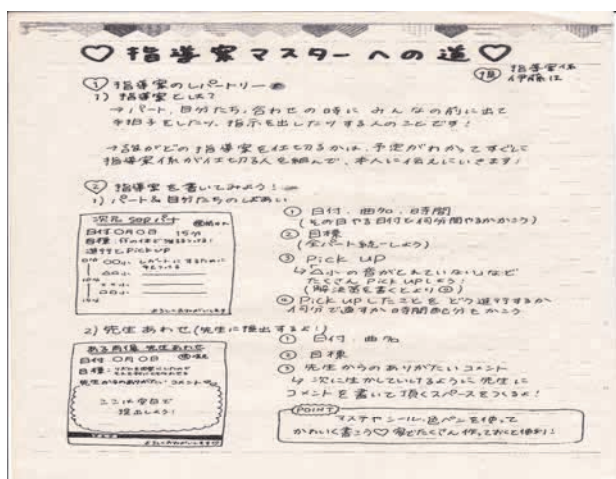


図7 指導案の書き方プリント1

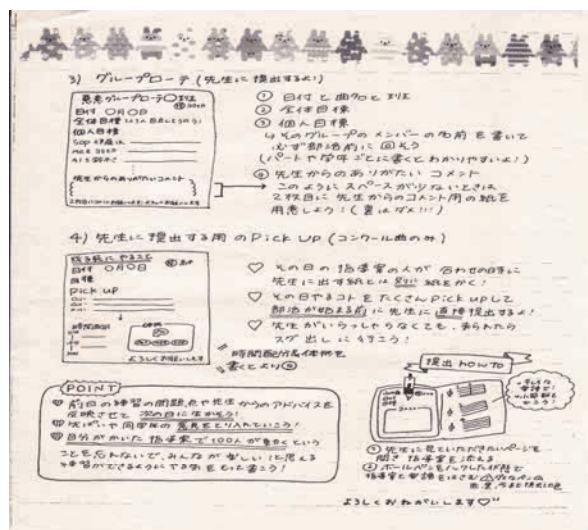


図8 指導案書き方プリント2

(グループローテーションについて)

5) 筋トレ係り

係りは、筋力トレーニングのプリントを作成し配布し(図9)、毎週土曜日に約1時間行う筋力トレーニングを計画的に進めていく。毎週の筋力トレーニングを楽しく実りあるものになるよう工夫していくことが大きな役割である。歌声に直結する大切な係である。

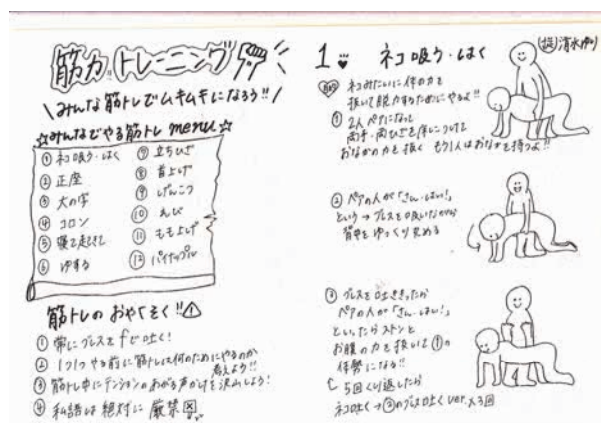


図9 筋力トレーニングの説明プリント

6) 音チェック係り

コンクール曲のすべての部分を、全員が正しい音程で歌唱できるよう音チェックを行っている。いつ、どこかの部分を、誰に、どのようにしてチェックしてもらい、合格をもらうのかを計画し、実施していく係りである。音チェックの方法プリントを作成し、効率よく、有効な音チェックとなるよう進めていく(図10)。

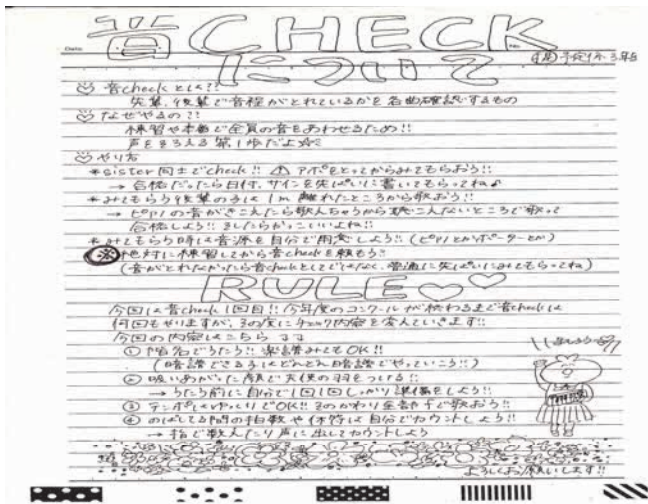


図 10 音チェックについて

7) オーディション係り（歌唱・語り）

コンクール時期に入ると、一人一人の歌唱能力のレベルアップを図る為に、毎日歌唱オーディションを行う。オーディション係りはプリントを作成し（図 11）、7 月には階名で音程について、8 月になると歌詞、強弱など音楽的な表現、一人で全曲歌唱、各パート一人のアンサンブル形式、など、様々な内容のオーディションを計画し、部員に日程、内容を知らせ、各人のレベルアップと、舞台上で自立して一人でも歌い切る力を養う。

また、歌詩を暗記し気持ちを込めて暗唱する「語り」のオーディションも計画していく。

オーディションを受けるためには、様々なチェックを合格する必要がある。オーディションは夏休みに入ると毎日顧問が行い、結果は翌日までに貼り出し、オーディション結果を本番の並びに反映させていく。

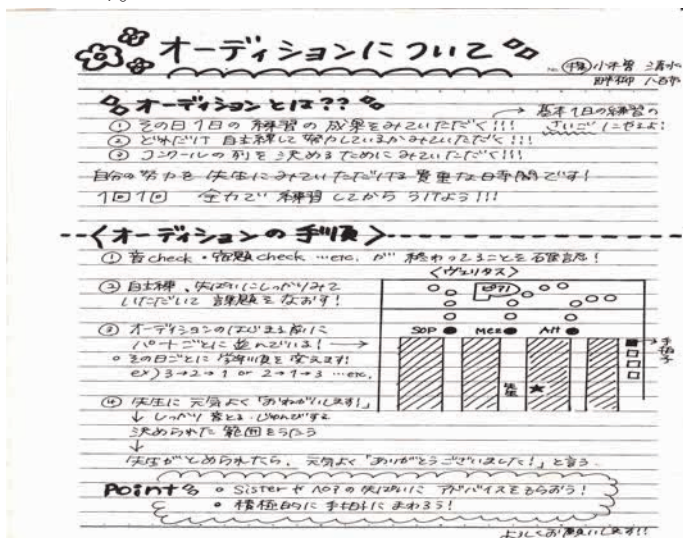


図 11 オーディションについて

2.3 舞台関係の係り

1) 踊り係り

合唱曲を直立不動で歌うだけではなく、動きながら歌う合唱の楽しさを知ってもらうために、ポップス曲などに踊りをつけて演奏することを始めた。自分たちでそれぞれの曲に合った振り付け、踊りを考えていき、最後に全国大会常連のダンス部顧問の指導を受け、踊りのレベルアップを図る。元気いっぱいの部員が担当することが多く、「エクササイズ」、「セブテンバー」などの本校定番の踊りや、ポップス曲のおどりをマスターするプリントを係が作成し、部員に指導する（図 12）。手の先、足の先、裏拍、手足の上げ方や角度まで、ダンス部のようにそろえるための練習計画を立て、実施する。約 100 名の部員の踊りが一糸乱れず揃うことは、チームプレーとしての合唱活動には大変重要なことである。また、身体全部を使って準備体操や柔軟運動をすることは、豊かな声づくりにも大切な活動である。

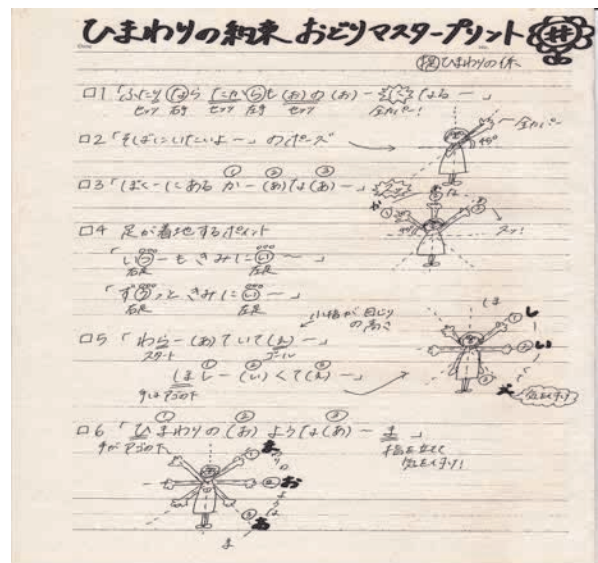


図 12 踊りをマスターするためのプリント

2) 衣装係り

定期演奏会ではオリジナルの衣装を作成するため、係りは衣装完成までを担当する。デザイン画の募集、型紙作り、布の買出し、衣装製作プリントの作成（図 13）、仮縫い、丈あわせをすべて係が行う。また、様々な行事（ページェント、ミサ、イベントなど）の衣装の配布、管理、丈あわせなどを計画的に行っていく。

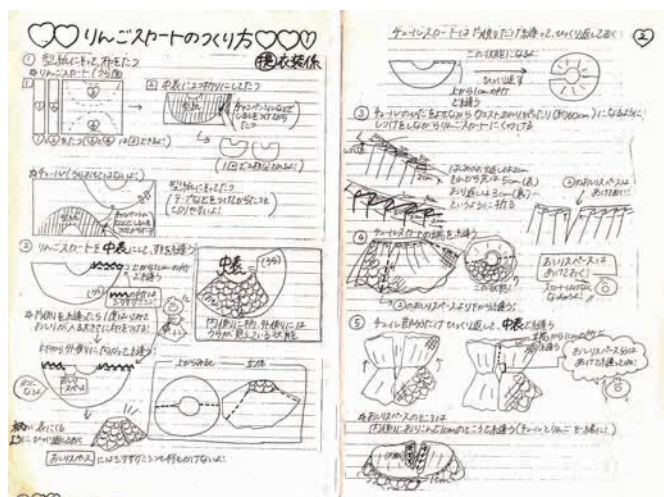


図 13 衣装作成プリント

3) 並び係り

各行事の並び表を作成する(図 14、15) 係りである。会場、舞台のの広さや、平台の大きさ、組み方、段数などを踏まえ並びを作成する。どの段で歌唱できるかは部員にとってとても重要なことである為、公平性を重んじ、かつ努力を反映し、演奏効果のある並びを決める必要がある。並びを作成するためには、部員の様々なことを理解している必要がある。曲目によりパートが変わり舞台上での移動がある部員、パートの上下や声質などから歌い易い並びなど、全員の歌唱パートや状態を正確に把握していないてはならない。その上で、まず出欠席により前列、後列など列の並びを考え、オーディションの結果を反映しながら並びを決定していく。最終的には顧問と相談し発表する。

また、舞台と同じ原寸大の舞台図をひもで作成し、本番近くには、舞台を想定しての練習を行う。

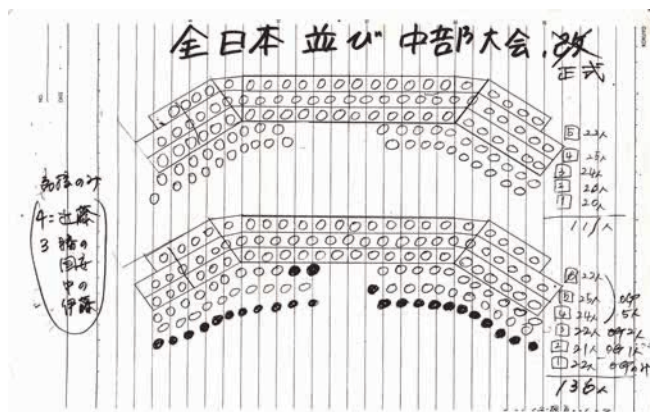


図 14 並びプリント 1

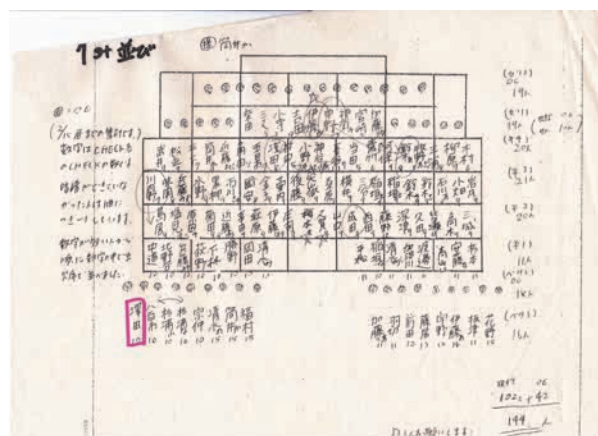


図 15 並びプリント (氏名記入) 2

4) 運搬係り

係りはイベント・行事・定期演奏会などに使用するものすべての運搬計画を立て、実施する。特にキーボード、ハンドベル 5 オクターブ、ハンドベルクッション 20 個、ハンドベルカバー (長机 5 脚分) などの大きな荷物の運搬のために、各班の運搬物の割り振り、車の手配、置き場所の確保、片づけまでを計画し、プリント作成する(図 16)。特に定期演奏会時には、ワゴン車 1、2 台分の荷物となり、運搬係の綿密な計画が必要である。

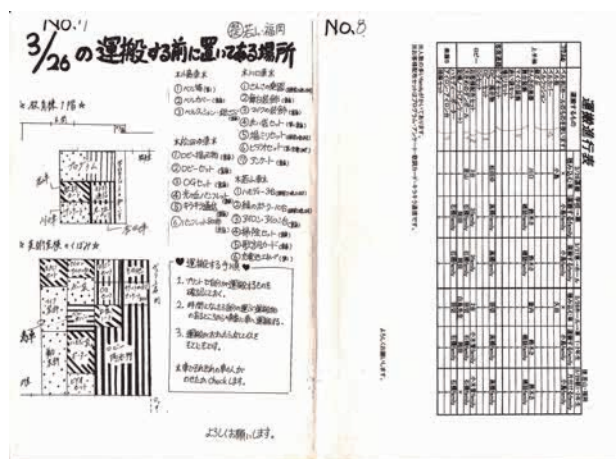


図 16 運搬計画表

5) ハンドベル係り

合唱部員はマルマーク社製の 5 オクターブのハンドベルを使用し演奏を行う。係りは、各行事にふさわしい選曲、アサイメント、練習計画、指導、指揮を中心に行う。

2.4 ノート・学習係り

1) 日記係り

声調日記は毎日練習の最後の5分に書き、自分を振り返り、明日の練習への意気込みを書くノートである（図17）。感動日記は、行事ごとにその行事についての感動と課題を記すノートである（図18）。係りは、声調日記については各学年の提出曜日を定め、週3回集め顧問に提出する。顧問は翌日部員に返却する。感動日記も同様に、行事ごとに全学年分集め顧問に提出し、返却まで行う。提出の有無は名簿にチェックし、並びに反映させていく。

部員は、声調日記、感動日記を自分の振り返りや成長のために書いているが、ノートに自分の考えや、悩みを記し、顧問とのコミュニケーションを図っている。筆者にとっても100名の部員と常時コミュニケーションをとることは難しく、ノートを通して様々なことを伝え、コミュニケーションをとる大切なノートである。また、これらのノートは、部員の成長の記録でもあり、文章を書く機会が増え3年生の受験時の小論文対策にも繋がっていく。

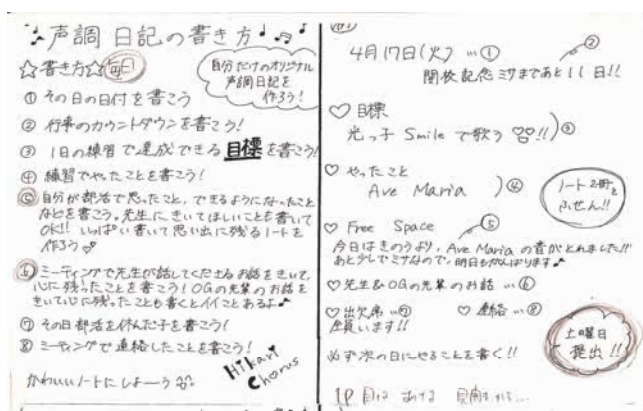


図17 声調日記の書き方プリント

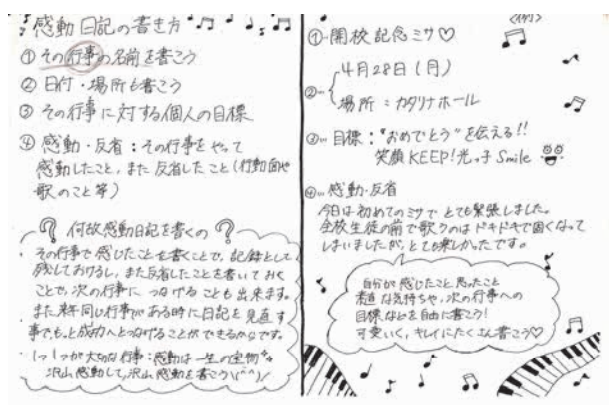


図18 感動日記の書き方プリント

2) 学習係り

部活動だけに偏ることなく、高校生としての本分である学習にもしっかり向き合っていきたいという思いから、学習面でもサポートをしている。学習係りは、定期テスト中の学習がはかどるように、学習の計画をたて、実行できたかを振り返るプリントを作成し配布し、テスト後回収し顧問に提出する。また、赤点者の学習のサポートも計画する。

3) 楽譜係り

演奏曲目が決定すると、楽譜を購入し部員に配布する。楽譜の整理、管理を行う。

2.5 縁の下に係り

1) 会計係り

会計係りは、部費の決定、集金、購入品の決定、物品購入、管理を行う。またチケットや、CD、DVD、写真代金の集金を行い購入後配布する。

2) 掃除係り

毎週土曜日の練習後に全員で清掃を行う。係りは、清掃時間と班毎の清掃場所を計画し、実施後点検を行い、練習場所とその周りの美化を遂行する。清掃道具の管理、補充も行う。

3) 電池係り

キーボードは4, 5名に1台あり、個人の音取り、キーボードを弾く練習、少人数のアンサンブル練習には必要不可欠である。練習中も各自がキーボードを持ちながら練習する為、電池を使用している。係りはハーモニーディレクターやキーボードの電池の購入、管理や補充を行う。

4) アルバム係り

コンクールや定期演奏会、行事の写真の注文、整理、アルバム作成を行う。魅力的なアルバム写真（写真19）は、新入生勧誘時に大いに役立つ。

5) ビデオ係り

3 行事・発表会などの活動

3.1 打ち合わせ

3.2 プログラム・進行表作成

[illegible]

図 20 進行表（定期演奏会の第 2 ステージ）

前日当日の準備、移動、練習、本番、片付けなどその日のタイムスケジュールをすべて計画し、プリント作成する（図 21）。

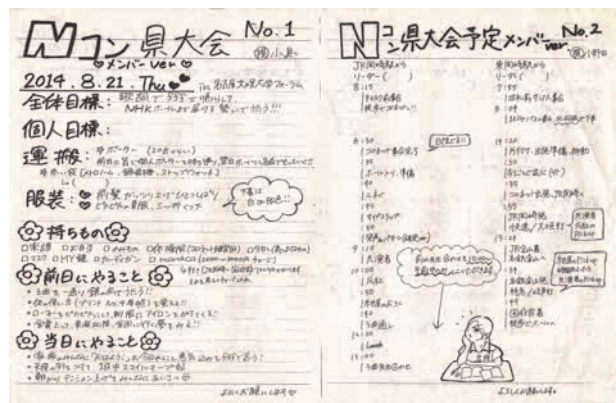


図 21 NHK全国学校音楽コンクール県大会予定

3.4 プログラム作成

岡崎市中央地域福祉センター・クリスマスキャロル



図 22 クリスマスキャロルのプログラム

3.5 衣装

その行事にふさわしい衣装を決定し、準備、配布を行う。

4 一年間の活動

合唱部の一年はとても忙しく、毎週のように行事や発表の機会を作った。毎回目標を決め、係りの仕事を部員が担当することで、音楽的に成長し、かつ一人一人の人間力も高まっていく。また、演奏する楽しさを味わい、多くの人に合唱部の存在を知ってもらう機会にもなる。

一年間の活動には、学校行事や学内活動、コンクール、合唱部独自の活動（合宿、定期演奏会など）、学校外行事として、様々なイベントやボランティア活動などがある。そして全員がどれかの行事を担当し、行事を成功に導いていく。それぞれの活動の意義、目的、方法等を下記に記す。

4.1 学校行事・学内活動

約 1000 人の生徒が在籍する私立ミッションスクールの女子高校での学校行事や、学内活動を下記に記す。学校行事に協力し、学内での数々の活動を行うことで、教員や全校生に合唱部の活動を認知してもらい応援してもらえるようにつなげていく。

1) ミサ

全校生参加の宗教行事が年 4 回行われる。4 月に開校記念ミサ、5 月に聖母を讃える集い、11 月に死者ミサ、12 月にクリスマスミサがあり、合唱部はミサの内容に即した宗教曲を全校生の前で演奏する。コンクールの課題曲であるルネサンス曲を勉強するとともに、宗教行事で演奏する機会を得ることができ、合唱部の活動を知ってもらえる機会になる。

2) 入学式

入学式は、新 1 年生と保護者が初めて聴く、合唱部の演奏と全校生の歌声である。厳かな式典中に、宗教曲とハンドベル演奏によるお祝いの曲を演奏する。1 年生と保護者に合唱部を知ってもらい部員確保につながる行事である。

3) 新入生歓迎会・ミニコンサート・部活動紹介

4 月の初旬に生徒会主催の新入生歓迎会や部活動紹介が行われる。また、合唱部独自に校内の広場でミニコンサートを開催し、新入部員の勧誘を行う。この時期の勧誘を綿密に、魅力的に行うことで新入部員の人数が決まっていく。かわいい衣装に身を包み、ハンドベルを持ち、笑顔いっぱい踊って歌いパフォーマンスを行う。勧誘の係りが、各クラス担当のグループを作り、目標人数を掲げ、勧誘方法のプリントを作成し(図 23)毎日朝昼夕勧誘に回る。ここで部員の確保を行うことが、その 1 年のコンクールや活動に大きな影響を与えるとても大切な活動である。

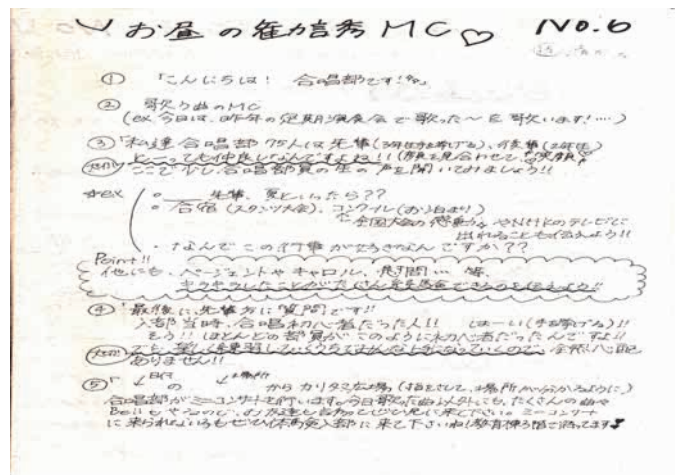


図 23 新入生勧誘のためのプリント

4) オープンキャンパス

オープンキャンパスは 5 月、8 月、11 月、12 月の年 4 回行われる。当日の朝に参加中学生の前でウエルカムステージが企画され、中学生とその保護者に合唱部をアピールする好機となる。また、体験入部では、ハンドベル体験や、一緒に手をつないで歌う曲や、先輩のお話など、中学生と仲良くなり合唱の楽しさを体験し、高校入学や合唱部入部につながる行事である。

5) 文化祭

文化祭は生徒会主催の学校行事であり、全校生、保護者、OG、他校中高生、一般の方などに、演奏を聴いていただける機会である。コンクールの中部大会前の時期であるため、コンクール曲のレベルアップにつながる大切な機会でもある。

6) クリスマスキャロル

12月初旬、正門内の広場で、吹奏楽部と合唱部でクリスマスキャロルの演奏を行う。一般の方への案内を行い、美しいイルミネーションの前で行うクリスマスの風物詩となる行事である。

7) クリスマス・ページェント

12月の第3週に、市内の大ホールを2日間借り切り、キリストの降誕劇を音楽とダンスで発表する。吹奏楽部、ダンス部、合唱部、有志の生徒が合同練習を何度も重ね降誕劇を創り上げていく。全国大会常連の吹奏楽部、ダンス部、合唱部が中心になって演じるため、レベルの高い公演になり、チケットがなかなか手に入らないことがあり、一般の方からも人気のある行事である。

8) 予餞会

生徒会主催により、2月に行われる3年生を送る会である。卒業生に1年を振り返り、思い出の曲や、定期演奏会を前にポップス曲で楽しんでもらう機会となる。

4.2 コンクール

コンクールは合唱部の活動の中でも中心をなす活動である。コンクールに勝つことが目標ではなく、良い演奏や音楽を追求していく中で、音楽的にも人間的にもチームとしても成長することを目標としている。その結果として全国大会に出場し多くの合唱仲間や全国レベルの演奏に出会える喜びを体験していく。

1) NHK全国学校音楽コンクール

このコンクールでは、40名の人数制限があるため、選抜のメンバーで演奏する。何度もオーディションを重ねメンバーを決定していくため、良い意味でパート内での競い合いがあり、レベルアップにつながっている。地区大会から、県大会、東海大会を目指していく。

2) 全日本合唱連盟コンクール

このコンクールは全日本合唱連盟主催で、Bグループ(33名以上)にエントリーし県大会、中部大会、全国大会を目指していく。コンクールが終了した時点で、次年度の組織を決め、次年度へのコンクール

を踏まえた練習が開始していく。

全国大会には、1995年、2011年～2016年に出場し、2013年には、文部科学大臣賞(第1位)とカワイ賞(邦人作品の中で第1位)を受賞する。

3) 愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト

このコンテストは、愛知県合唱連盟主催で1月初旬に開催され、3チーム(1チーム11人以内)まで出場可能である。3チームの選曲はルネサンス曲、ロマン派曲、邦人作品とし、3チームの曲目から、自分のチャレンジしたいチームを選び、各チームオーディションにて11人のメンバーを選ぶ。様々な音楽様式を学ぶ機会となる。

4.3 合唱部独自の活動

合唱部独自の活動は、合唱部を活性化させ発展させていく上で大切な活動である。また、強化合宿と定期演奏会は1年の中で重要な活動でありエネルギーを注ぎ成功に導く。大切な活動であるとともに、部員が大きく成長する機会でもある。

1) 強化合宿

7月下旬に、3泊4日で愛知県新城市にて強化合宿を行う。コンクール曲のレベルアップを目標に練習を行い、一人ひとりが自分の課題に向き合い逃げずに克服する大切な機会となる。

係りは、4日間の予定表を作成し(図24)実施していく。練習では、個々のレベルにあわせグループをわけ、グループローテーションを繰り返し、課題を克服できるようにしていく。各グループの内容は、音が正確に取れていない音取りグループ、声の課題を抱えているグループ、フォルテで歌えるようにするフォルテグループ、音楽的なレベルアップを図るグループなどに分かれる。また、1学期末テストで赤点を取得したものは、練習時間を削り勉強時間を設ける。夜は「語り」を一人ずつチェックし、気持ちをこめて詩の朗読ができるようにする。また、最終日の夜は、スタンプ大会を企画し、くじ引きで決めたグループの楽しいスタンプ発表を保護者も交えて全員で楽しむ。練習は苦しく大変だけれど、気持ちを切り替えて、みんなで心を許し合い楽しむことも学んでいく。

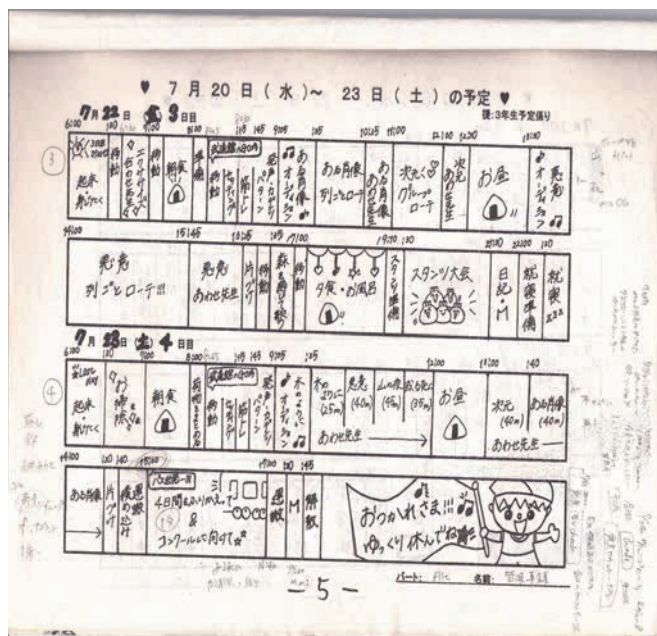


図 24 合宿の4日間の予定

2) 定期演奏会

筆者は第1回から第40回の定期演奏会を手掛けた。1年の集大成である定期演奏会は、広報、プログラム作成、スポンサー集めから演奏まで、すべて部員の手で企画し開催する。第1回～第15回は、吹奏楽部との合同で開催、第16回～第27回は400人のホールで、第28回～第40回の定期演奏会は1500人収容のホールで開催した。写真25は、部員が作成したプログラムの表紙である。



写真 25 第40回定期演奏会 プログラム表紙

3) 中学校合唱部との交流

合唱部主催で、7月に市内の4,5校の中学校の合唱部とNHK音楽コンクールの課題曲を一緒に歌い、お互いに勉強しあう合唱交換会を開催している。中学校の合唱部は、コンクール曲の発表とともに、本校の女声合唱の演奏から学ぶことも目的としている。前半は、課題曲の指導を筆者が行い、後半はお互いに演奏を披露し応援コメントを交換する。地元中学校の合唱部のレベルアップと、本校と中学生の交流が今後の合唱部員獲得にもつながっていく。

また、定期演奏会の中の1ステージを中学生との合同ステージ(図26)とし、交流と互いのレベルアップを図る機会としている。

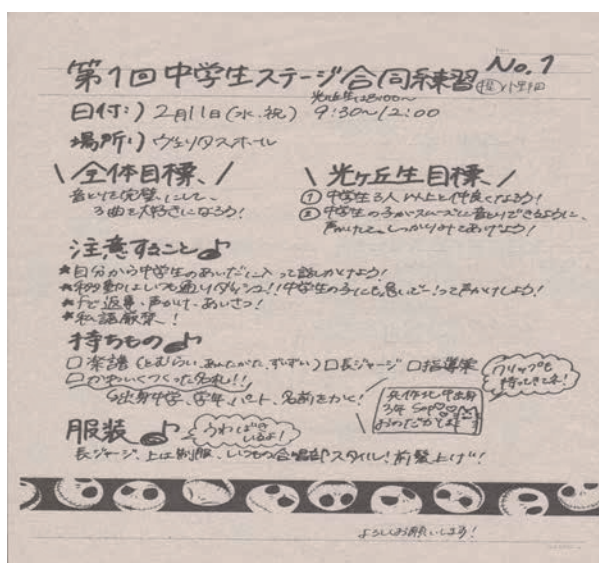


図 26 中学生との合同ステージのためのプリント

4) 海外演奏旅行

1992年から、3年に一度を目途に海外演奏旅行を企画し、下記の国を訪問しホームステイし、現地合唱団との交流と演奏会を行った。下記は、訪問年と訪問国である。他国の文化、音楽を肌で感じ学び、部員は帰国後豊かな音楽表現ができるように成長している。

- 1992年 ニュージーランド
- 1995年 オーストラリア
- 2000年 ハンガリー (ケチュケメート)
- 2003年 ドイツ (ベルリン・ライプツィヒ)
- 2006年 ポーランド
- 2009年 ベルギー

2015年3月には、ブダペスト国際合唱コンペティションに参加し総合1位と、著者は、最優秀指揮者賞を受賞した(写真27)。



写真 27 筆者の優秀指揮者賞受賞 賞状

4.4 学校外活動

学校外の活動には、合唱関係の発表会や講習会に参加し学ぶ機会、他校の合唱部と交流する機会、ボランティア活動や、依頼演奏会等がある。他団体や、外部の大人の人から学ぶことが多々あり、コミュニケーション能力も鍛えられていく。

1) 合唱連盟・高等学校文化連盟合唱専門部主催の演奏会

① 合唱祭

愛知県合唱連盟主催の合唱祭が6月初旬に開催される。老若男女、年齢層も幅広く様々な合唱の楽しみ方を体験できる機会である。コンクール曲の披露とともに、その年度の他の高校合唱団のレベルを知り学ぶ機会でもある。

② 合唱講習会・合唱祭

愛知県高等学校文化連盟合唱専門部主催で7月下旬に開催される合唱講習会と合唱祭がある。午前は、著名な指導者を招きNHK全国学校音楽コンクールの課題曲の講習を受ける。混声合唱団とともに講習を受講する為、混声合唱を味わう機会でもある。午後は合唱祭で、各校の発表を行い互いに応援コメントを書きあい、県コンクール間際のコンクール曲試演の機会となる。

③ 全国高等学校総合文化祭

全国高等学校文化連盟主催の全国高等学校総合文化祭に、1993年第17回埼玉大会、2000年第24回静岡大会、2006年第30回京都大会、2008年第32回群馬大会に出場する。全日本合唱連盟のコンクールが中部大会までしか進めない時期に、全国レベルの演

奏に接することを目標に参加した。

2) 他の私立学校との活動

① 私学祭

西三河の私立高等学校の音楽部（合唱・吹奏楽・弦楽）が11月初旬に発表する音楽会である。合唱だけでなく、他の楽器の演奏、他のジャンルの楽曲の演奏を聴く機会となる。クリスマスに向け、ポップス曲の発表としての舞台となる。

② 新入生歓迎フェスティバル（5月）・オータムフェスティバル（11月）・BIGフェスティバル（11月）・サマーセミナー（7月）

これらの活動は、他の私立高校生とともに協力して私立学校のために活動する催しである。フェスティバルでは、式典の中心になる合唱パートを本校が中心になり、他の合唱団のお手本となり、式典中の合唱全体を牽引する役目を担っている。

サマーセミナーは、合唱部の練習を公開する内容とし、合唱部の日ごろの練習をそのまま見学してもらう。他校の合唱部員や一般合唱団に所属している方など様々な方が見学にくる。見学者がいることで練習に良い緊張感が生まれ、コンクール前のレベルアップを図ることができる。

3) ボランティア活動

ボランティア活動は、合唱を通して社会貢献を学ぶ機会であり、継続して行っている。合唱の楽しさ、音楽の力を実感するとともに、毎年楽しみに待っていてくださる方がいることへの感謝の気持ちも育んでいく。

① 刑務所慰問（岡崎医療刑務所）

1992年～2016年まで毎年慰問に訪れる。2002年に森山真弓法務大臣より、矯正行政感謝状を授与（写真28）。

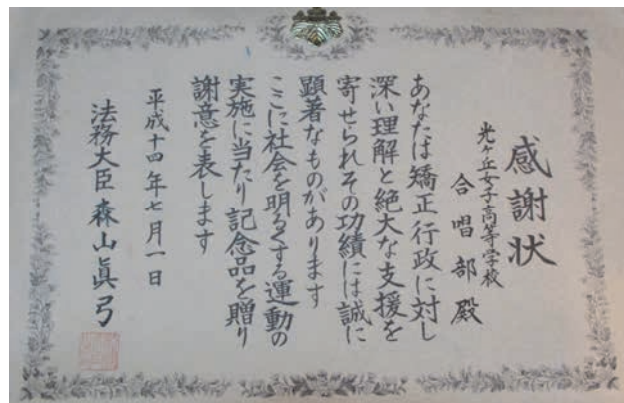


写真 28 森山法務大臣からの感謝状

はじめは硬い表情の収容者も、高校生の澄んだ歌声を聴いているうちに表情も和らぎ、最後の合同合唱では涙を流しながら歌ってくれる感動の慰問演奏会である。1年生も最初は硬い表情であるが、収容者の表情や歌声の変化に伴い、音楽の力の素晴らしさを体験する貴重な演奏会になる。最後に収容者代表のお礼の言葉には、筆者も毎年涙する。

② 市民病院のクリスマス演奏会

2000年から9回、岡崎市民病院にてクリスマスキャロルの演奏会を行う。入院中の方、その付き添いの家族がロビーに集う。ボランティアや看護師の手を借り、車椅子やベッドの人もロビーに来て参加している。

③ 愛知病院の演奏会

2000年から11回、2月に愛知病院ロビーで演奏会を行う。車椅子や可動ベッドでもロビーに来ることができない方のために、病棟を回り歌ったり、緩和病棟では手をつないで演奏を行った。

④ 高年者センター・中央福祉センター

高年者センターでは、1990年から10回、中央福祉センターでは2003年から10回クリスマス時期にお年寄りを対象にクリスマスキャロルの演奏会を行う。参加者は、デイサービス利用者や施設のお年寄り、認知症を患っている人、奇声を発する人、眠っている人などいる。その中でコミュニケーションをとり、お年寄りと手を取り合って演奏する貴重な機会となる。

4) 依頼演奏会

①クリスマスキャロル

合唱部の活動の中で最初にクリスマス・キャロルを企画したのは、市内にあるショッピングセンターシビコでのクリスマスキャロルである。1989年～1996年まで8年間行う。楽しい合唱を知ってもらえるよう、そして合唱部の活動の場を増やすために筆者が企画を持ち込み実現したキャロルである。その後この演奏のことが広まり、多方面から依頼が来るようになった。部員は白いガウンを着用し、キャンドルを持ち、30分から1時間、ハンドベル演奏も交えたクリスマス曲を演奏する。様々な方に本校合唱部を知っていただき、応援していただける機会が広がった。下記にその一部の催しを記す。

・名古屋港スターライトレビュー：1992年・1993～95年

・岡崎情報ネットワークセンター：1996～99年

・ライオンズクラブやロータリークラブの家族会
・蒲郡ホテルイルミネーション：点灯式 2007～08年

② クリスマスキャロル・

安城産業文化公園デンパーク

1997年から2016年までの20回、イルミネーションの美しい温室内での演奏会を行う。年々観客が増え、演奏するほうも楽しいイベントである。2学期末の試験で赤点を取得したものは出演できない。

③ 小中学校からの依頼演奏

豊田市、豊橋市、碧南市、高浜市などの小、中学校から依頼され、文化祭、合唱コンクールの中で本校合唱部が約30分の演奏を披露する。プログラムは少し難解なコンクール曲、歌って踊るポップス曲、中学生が良く歌う合唱曲、全員で手をつなぎ、肩を組んで感動しながら歌える曲を選曲する。ハイレベルの合唱を鑑賞するとともに、合唱の楽しさ、本校の合唱部を知ってもらえる良い機会となる。

④ 国・県・市の行事

1993年の愛・地球博、1994年のわかシャチ国体・ゆめぴつく愛知、2003年岡崎市水道70周年記念行事、2003年額田ふるさと祭り、2003年・2014年実践体験文発表会、2006年岡崎市市制90周年、2016年第31回国民文化祭閉会式などに参加し、合唱を披露する。2014年第60回献血運動推進全国大会では、現天皇（当時皇太子）の前で「献血の歌」を演奏した（写真29）。

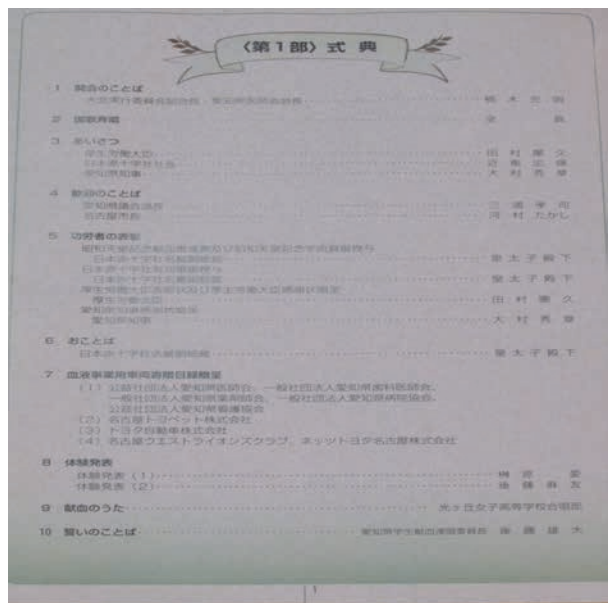


写真 29 第 60 回献血運動推進全国大会
式典 プログラム

④ その他

登録文化財岡崎信用金庫資料館、カクキューきらり祭り、プロバスケットリーグ開会式、松本道子バレエ団くるみ割り人形、森山良子コンサートなど、多種多様な演奏会に出演した。

5 おわりに

合唱部は、この40年の間に、10名～20名ほどの部員数で、県大会にやっと進めるレベルから、約100名の部員数になり全国大会1位を受賞するまでに成長した。本著では、合唱部活動の活性化をはかるための組織づくりと、一年間の様々な活動について述べてきた。今後、この40年間のコンクール、定期演奏会、行事、活動や部活動の運営方法の変遷、あゆみについて記していきたい。

参考文献

- ・フレデリック フースラー著：
『うたうこと 発声器官の肉体的特質—歌声のひみつを
解くかぎ』 株式会社音楽之友社 (1987年)
- ・全日本合唱連盟 合唱コンクール 全国大会開催地・金賞
受賞団体 <http://www.jcanet.or.jp/index.html>

(原稿受理年月日 2019年10月10日)